

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2024年5月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2024年5月10日～5月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 140社
- 回収率 70.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の5月の状況を見ると業況DIは、前月より0.1ポイント改善の▲22.2となった。

2017年9月以来81ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲19.3、当月と比べ2.9ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2023年 12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 2024年6月～ 2024年8月
業況	▲22.8	▲20.3	▲24.4	▲22.0	▲22.3	▲22.2	▲19.3
売上	▲13.4	▲5.3	▲14.7	▲13.3	▲18.0	▲25.7	▲17.1
採算	▲24.4	▲21.1	▲25.2	▲24.5	▲18.0	▲25.7	▲18.6
仕入単価	▲59.8	▲57.9	▲59.4	▲63.8	▲64.7	▲65.0	▲54.3
販売単価	26.0	27.0	25.2	25.2	35.2	26.4	19.2
従業員	33.1	33.0	30.0	37.0	38.9	35.0	37.1
資金繰り	▲8.7	▲12.0	▲13.8	▲11.0	▲12.3	▲12.2	▲15.0

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2023年 12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 2024年6月～ 2024年8月
建設	▲31.0	▲31.0	▲36.7	▲11.6	▲33.3	▲25.8	▲29.0
製造	▲23.4	▲15.6	▲32.3	▲25.0	▲27.8	▲25.7	▲22.9
卸売	▲16.6	▲17.3	▲16.6	▲7.7	▲3.3	▲3.3	6.7
小売	▲25.0	▲27.3	▲21.0	▲30.0	▲25.0	▲30.0	▲30.0
サービス	▲16.7	▲9.5	▲5.2	▲39.1	▲21.7	▲29.2	▲25.0

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・残業規制が強化されたため、受注を絞る方向にならざるを得ず、売上は減少傾向が続くだろう。（総合工事） ・工事量は昨年の同期と比べて戸建てを中心に減少しており、向こう3カ月は徐々に増加すると思われるものの回復は鈍いと想定しており昨年を上回るのは難しい。また、日本の1-3月期のGDPはマイナス成長となり主要国の中で唯一のマイナス成長であった。特に個人消費が弱く、6月に始まる定額減税を昨年12月の年末調整で実施していれば状況が変わっていたかもしれない。今後定額減税は1回限りと報道され、電気・ガスの補助金も終了しさらに、子育て支援金で保険料が上がり、配偶者控除の見直しも検討されていると聞えてくる。このような状況下では、個人消費が好転するとはいえず、今後の業績の見通しに不安を感じている。（設備・その他） ・足元の新築住宅の受注量は、前年同期と比較して大幅に落ち込んでいる。新築住宅単価の上昇による中古住宅へのシフトなど新築住宅志向の減少があるとはいえ厳しい環境である。将来的に新築需要の低下は避けられないため、リフォーム・リノベーションへの事業領域拡大も一つの戦略として捉えているところである。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・経年による設備機器部品供給の停止通知があり、設備投資を行いたいが本年度農産物の収穫終了をみて本格的な検討を考えた。（食料品） ・売上の減少、原材料の上昇。道・国の出先機関の地元発注の必要性。（印刷・出版） ・徐々に売上げが右肩上がりになりつつある。それほど景気が良いとは言えないが、大阪万博案件の引合いなどがきているためこれが受注に繋がれば業績の底上げになると思う。（家具・木材） ・見積り減少、受注競争による採算悪化。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年10月の最低賃金上昇やインボイス対応に始まり、電帳法対応。今度は定額減税への対応で事務負担が増えている。時間と費用と労力の負担増に悩んでいる。（繊維・衣服等） ・昨今の為替相場の上下が激しく数か月後には輸入品の価格変動が起こると予想する。現時点では在庫もあり仕入・販売単価が変更する事はない。（飲食物品） ・今月は前年度と同等の業況といえる。仕入単価の上昇に価格転嫁できており売上増になっているものの、売上数量が増えていない。（機械鋼材） ・灯油の仕入値は上昇しているが小幅なものであり、販売価格は現状のまま推移している。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・5月は天候も良く来店客もそこそこ増えているが、曜日により来店客数に波があり、売上げが読めない。顧客及び来店されたお客様にトータルで商品を見せ、購買意欲を高めていき売上を確保していく。（衣服身回品） ・コロナ禍での回復で、昨年は近年にない好決算となった。要因は値上げしたにも関わらず売上が右肩上がり調であったことが大きい。今期も原料値上げが止まらず、弊社商品も値上げしたが売上数量はそろそろ頭打ちの状況。当初から、今回の値上げは減収となる可能性は予期していた。今後の動きを注視していきたい。（食料品） ・観光客の来店が少しずつ増えてきた。本格的な観光シーズンに期待する反面、飲食関連の値上がりがあるためお土産への出費は控えめになることも考えられ見通しは微妙なところ。（その他） ・販売単価の上昇により前年対比では売上が増加する見込み。今後の賃上げやエネルギー価格の高騰・設備投資による営業費の増加を考慮し会社全体で利益を上げていくことに重点を置いていく。（自動車）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足にてスタッフが疲弊。バイトアプリ等を活用して乗り切る。（理美容・クリーニング） ・経費の上昇が続いており、販売単価を上げないと利益確保できない。インバウンドの増加と巷では言っているが実感はない。（ホテル・旅館） ・燃料費の高騰、施設の老朽化が問題となっている。（ホテル・旅館） ・コロナの影響で中断していた、インバウンド需要によるリゾート開発が一斉に動き始めた。（その他） ・修学旅行等のシーズンになり、稼働率は上昇見込。労働時間制約問題により人手不足に追い打ち状態であり、やりくりが苦慮。ただし、国の運賃制度改定で単価上昇のため収入増は見込める。GW期間中の人出は昨年より少なくなっていた。この時期に新紙幣対応の機材準備で大幅出費は資金繰りに大きく響く。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI6.0 ポイント悪化、採算 DI2.2 ポイント悪化、仕入単価 DI8.8 ポイント改善、販売単価 DI11.0 ポイント悪化、資金 DI6.3 ポイント悪化、従業員 DI5.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 7.5 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、設備・その他横ばい、総合工事 4 ポイント、建築業 13 ポイント改善となった。工事受注量は昨年並みであるが、資機材等の価格高騰により利益を圧迫しているとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI1.7 ポイント改善、採算 DI15.0 ポイント悪化、仕入単価 DI1.1 ポイント改善、販売単価 DI7.9 ポイント悪化、資金 DI3.2 ポイント悪化、従業員 DI5.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 2.1 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 1 ポイント、印刷・出版 7 ポイント悪化、家具・木材 5 ポイント、金属窯業他 2 ポイント改善となった。売上げ増加で原材料価格上昇分をカバー出来ているとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI13.4 ポイント悪化、採算 DI10.0 ポイント悪化、仕入単価 DI10.0 ポイント悪化、販売単価 DI6.6 ポイント悪化、資金 DI3.3 ポイント改善、従業員 DI13.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は横ばいとなった。業種別では、食料品 27 ポイント悪化、繊維・衣服等 20 ポイント、機械鋼材 1 ポイント、その他 11 ポイント改善となった。エアコンの売上が好調との声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI15.0 ポイント悪化、採算 DI 横ばい、仕入単価 DI5.0 ポイント悪化、販売単価 DI5.0 ポイント悪化、資金 DI5.0 ポイント改善、従業員 DI10.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 5.0 ポイント悪化となった。業種別では、自動車 20 ポイント改善、食料品、その他横ばい、衣料品 100 ポイント悪化となった。仕入単価は上昇しているが、伸び率が弱まっており、単価アップによる売上増は期待できない。電力を中心としたエネルギーへの政府助成もなくなり、今後の経費増が読めないとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI12.0 ポイント悪化、採算 DI7.8 ポイント悪化、仕入単価 DI2.9 ポイント改善、販売単価 DI14.2 ポイント悪化、資金 DI5.4 ポイント改善、従業員 DI19.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 7.5 ポイント悪化となった。業種別では、整備業 25 ポイント、運送 10 ポイント改善、理美容・クリーニング、飲食横ばい、ホテル・旅館 30 ポイント、その他 25 ポイント悪化となった。労務費等のコスト増や価格転嫁との声も寄せられている。</p>